

安全データシート

作成日 : 2013年10月25日

改定日 : 2016年1月27日 (ポリ袋E追加)

1. 製品及び会社情報

製品名 ヘイコー透明ポリ・半透明ポリ、ヘイコーLDポリ(ポリ袋Eを含む)
会社名 株式会社エスティシー
住所 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-29-8
電話番号 03-3865-0158
FAX番号 03-3862-5549
担当部署 商品部
担当者 肥田 耕一

2. 危険有害性の分類

分類の名称 分類基準に該当しません。 危険性 可燃性です。
有害性 現在のところ知見無し。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名 ポリエチレン (LLDPE:90-50%、LDPE:10-50%)
官報公示整理番号(化審法、安衛法) LLDPE:(6)-18、LDPE:(6)-1
国連分類及び国連番号 -
化学式又は構造式 LLDPE:-(C₂H₄)_n-(Cp-CH₂p)_m-、LDPE:-(CH₂-CH₂)_n-
CAS No. LLDPE:25087-34-7、LDPE:9002-88-4

4. 応急措置

目に入った場合 流水にて十分洗眼し、眼科医の手当てを受けて下さい。
皮膚に付着した場合 通常は特に問題ありませんが、石鹼水で洗い流して下さい。
溶融物が付着した場合は、衣服の上から大量の水をかけ、十分に冷却の上、衣服を脱がせて下さい。但し、溶融物が皮膚に付着している場合には、無理に剥がさず、医師の手当てを受けて下さい。
吸入した場合 高温の溶融樹脂から発生するガスをひどく吸入した時は、新鮮な空気の場合に移して下さい。異常が認められた場合は医師の手当てを受けて下さい。
飲み込んだ場合 大量の水を飲ませて、指を差し込んで吐かせて下さい。異常が認められた場合は医師の手当てを受けて下さい。

5. 火災時の措置

消火剤 水、粉末消火剤、泡消火器、CO₂消火器、乾燥砂など
使ってはならない消火剤 特にありません。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 フィルムの先端で皮膚等を傷つけたり、転倒したりする恐れがあるので注意して下さい。
環境に対する注意事項 風雨による再飛散の恐れがある場合は、シート等で覆い、下水・河川・海域等に流出しないように注意して下さい。
封じ込め及び浄化の方法 少量の場合は、掃除機・箒等で容器に回収し、清掃して下さい。
二次災害の防止策 多量の場合は、周囲を火気厳禁とし、速やかに掃き集め、容器に回収して下さい。
露出した場所の周囲には関係者以外立ち入りを禁止し、付近の着火源となるものを速やかに取り除いて下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 耐薬品性は概ね良好ですが、一部侵食、膨潤現象が見られる事がある為化学薬品は入れないで下さい。
保管 極端な高温・多湿を避け、常温・常湿・冷暗所にて保管下さい。
可燃物ですので、火気の近くでの保管は避けて下さい。
フィルムで頭や顔を覆うと、窒息する恐れがあるので覆わないで下さい。
安全な容器包装材料 紙または段ボール包装

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 取扱場所の近くに手洗い、洗顔設備等を設けて下さい。
粉塵及びガスが発生すつ作業では局所排気装置を使用して下さい。
作業場に小型消火器を設置して下さい。
許容濃度 日本産業衛生学会2000年度版 第三種粉塵

吸入性粉塵として 2mg/m³
総粉塵として 8mg/m³

防護具

呼吸器の保護具 必要に応じ、防塵マスクを着用して下さい。
手の保護具 必要に応じ、ゴム手袋を着用して下さい。
目の保護具 必要に応じ、保護眼鏡を着用して下さい。
皮膚及び身体の保護具 必要に応じ、長袖の作業服、安全靴及びヘルメットの着用を行って下さい。
適切な衛生対策 マスク等の吸着剤の交換は定期的に行って下さい。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 個体
形状 フルム状個体
色 無色透明
臭い 無臭
pH 該当しません
融点 約107°C~130°C
引火点 約330°C以上
発火点 約340°C以上
爆発特性 粉砕作業等で多量の微粉末が発生した場合、静電気による粉塵爆発の可能性あります。
密度 0.87~0.96g/cm³
溶媒に対する溶解性 水に不溶

10. 安定性及び反応性

安定性 常温では安定で反応性に乏しいです。
特定条件下で生じる 溶融等の高温では一部熱分解します。着火源があれば燃えます。
危険な反応
避けるべき条件 高熱、炎
避けるべき材料 強酸化剤
危険有害な分解生成物 溶解、燃焼等の高温では一酸化炭素、アルデヒド、その他の炭化水素(含酸素化合物も含む)ガスが発生します。

11. 有害性情報

急性毒性 現在のところ知見ありません。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 現在のところ知見ありません。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 現在のところ知見ありません。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 現在のところ知見ありません。
生殖細胞変異原性 現在のところ知見ありません。
発がん性 現在のところ知見ありません。
生殖毒性 現在のところ知見ありません。
特定標的臓器毒性、単回暴露 現在のところ知見ありません。
特定標的臓器毒性、反復暴露 現在のところ知見ありません。
吸引性呼吸器有害性 現在のところ知見ありません。

12. 環境影響情報

生態毒性 海洋生物、鳥類が摂取することを防止するた為、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはなりません。
残留性・分解性 分解しにくく安定な為、自然界に蓄積されます。
生体蓄積性 現在のところ知見ありません。
土壤中の移動性 現在のところ知見ありません。
オゾン層有害性 現在のところ知見ありません。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 産業廃棄物として定められた法令、規制に従って廃棄処理を行って下さい。
包的規制に適合した設備と方法で焼却処理を行って下さい。
下水、河川、海域等への流出に注意し、環境中に放出しないで下さい。
包装材料を焼却する場合は、内容物をつ除去した後に、法規制の適合した焼却炉で処理を行って下さい。
汚染容器、包装 都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に廃棄物の内容を明確にして処理を委託して下さい。

14. 運送上の注意

国際規制 IMDGICAO-TI/IATA-DGR規制に該当しません。
国連分類 国連勧告の定義による危険物に該当しません。
国連番号 該当しません。

国内規制	消防法に於ける指定可燃物に該当するので、同法に従って、容器・積載方法による輸送を行って下さい。
輸送の特定の安全対策及び条件	包装袋が破れないように水漏れや、乱暴な取扱いを避けて下さい。転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れ防止、火気を避けて下さい。
海洋汚染物質	該当しません。

15. 適用法令

法令情報	
化学物質管理促進法	該当しません。
労働安全衛生法	該当しません。
毒物及び劇物取締法	該当しません。
消防法	第9条の3、指定可燃物「合成樹脂(その他のもの)」3000kg以上。
廃棄物処理法	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(産業廃棄物、廃プラスチック類)
食品衛生法	食品包装用途に使用する場合、その他この製品に関する貴国又は地方の規制を順守して下さい。

16. その他の情報

引用文献	各社の製品安全シート
制約事項	記載内容は現時点で入手できる器量、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂される事があります。 また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたもので、特別の取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。 記載内容は情報提供を主目的とするものであり、保証するものではありません。
